

このコーナーでは、皆さんからの「お便り」や「写真」をお待ちしています。

【投稿について】

- ◆お便りは、字数200文字以内。写真は、1枚につき50文字以内。(文章は、必要に応じて添削する場合があります)
- ◆住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ペンネーム(記入がない場合イニシャルで掲載します)を記入の上、伊佐PR課までご投稿ください。
- ◆投稿は、はがき・封書・メールまたは直接伊佐PR課(大口ふれあいセンター2階)へ
- ◆締切は、毎月10日
※営利目的や個人、団体を批判・中傷するような内容は掲載できません。
※紙面の都合上、掲載できないこともあります。

【投稿・問い合わせ先】

〒895-2511
伊佐市大口里2845番地2
伊佐PR課
「和みのひろば」係
☎④4113
✉ koho@city.isa.lg.jp



公園やお寺の池で可憐に咲く睡蓮を自分で育ててみたいと思いませんか。私は家の庭を開放して水生の植物をたくさんの方に観賞していただいています。お客さまからは、育て方を知りたいとか苗を分けて欲しいという要望があります。それなら全部まとめてお応えしようと思いい、2月中旬から1か月ほど毎日、植え付け方法をお教えます

最近、穂だれひきをする家は少ない。年末の餅より少し多めに塩を入れた餅をエノキに刺して、軒下や神棚に飾って豊作を祈願する。この日は大きな鍋に野菜、魚など切らずに煮て、柳の箸で食べていた。囲炉裏の灰の上では鏡餅を焼いて食べた。古くからの行事にはそれぞれ、いわれや人々の生きてきた証がある。
故郷を離れて暮らす親戚や知人に行事の写真などを送ると、懐かしく楽しみだと喜びの返信がきた。こちらも嬉しく心がなごむ。
(羽月西 大王神社 60代)

「穂だれひき」いつまでも残したい1月の風物詩ですね。水生植物園さんの投稿に関するお問い合わせは、伊佐PR課まで。



今年で2回目の「めのもち」づくり。子どもから大人まで粉まみれになりながら餅花と笑顔を満開にしました。
(曾木 曾木コミュニティ 40代)

ることにしました。苗や道具は揃っています。一緒に睡蓮の鉢植え栽培に挑戦しませんか。いつでもどうぞ。
(羽月 水生植物園 70代)



人口のうごき
(住民基本台帳から)

H27. 1. 1 現在 (前月比)

総人口	28,186人	(- 62)
男	13,050人	(- 25)
女	15,136人	(- 37)
世帯数	14,020世帯	(- 20)

飽食の時代で食べ物に対する感謝の気持ちを忘れがちですが、取材を通して豊作を願ったり感謝したりする機会を与えられ、受け継ぐ方々の思いに触られたような気がします。
これからも正しく継承していくために伝統行事を支える皆さんの活動を広くお伝えしていきます。

出初式の「梯子乗り」や各地で行われた「鬼火焚き」、「もぐら打ち」と「穂だれひき」など、年明けには数多くの伝統芸能・行事がありました。伝統を守ることは大変難しく、その由来や意義、先人たちの思いなどが徐々に薄れ、形式ばかりになってしまわないよう「伝統を受け継ぐ心構え」も大切だと思います。
伝統行事の場には子どもたちの姿がよく見られました。行事への参加を通して受け継ぎ方も学び「古きよき伝統を守っていきたい」という意志が芽生えてくれることでしょう。



編集後記